

町の名勝、桂川「六ヶ堰」の風景をバラの花で表現する和趣庭園



# 京北・香りの里 六ヶ畔 花簾庭

～美しい里山風景と「香りの庭」を海外に向けて発信する～



企画申請団体：京北グリーン株式会社  
共同企画団体：株式会社CML一級建築士事務所  
タツト・プラン & T株式会社



「花簾庭」全景。遠くに京北の美しい山並みが連なる里山風景が広がる



完成予想図

## 香りの植栽リスト

使用する樹木				使用する宿根草、その他							
シーン	樹木名	本数	シーン	樹木名	本数	シーン	草花名	株数	シーン	草花名	株数
出入口	ウメ	1	2	セイヨウハイカウツギ	1	2	クリスマスローズ	100	6	ジャコウウ	20
3	タイリンミツマタ	1	2	サラサウツギ	1	5	スイセン	200	2	キョウトミト	20
2	ユキヤナギ	10	3	紫陽花	20	5	ニオイシズレ	50	2	ブルバキア	20
3	アオダモ	1	3	西洋菜陽花(アナベル)	10	4	クレマチス	30	6	ヒューケラ	30
5	ボタン	10	3	ジャカランダ	3	2	フリージア	50	2	ホタルシロ	30
2	カリフォルニアライラック	3	5	ニオイハママツリ	3	2	ムスカリ	100	6	オダマキ	50
5	リキウハイ	2	2	ブッドレア	5	2	アジガ	100	2	クラリセージ	30
5	アセビ	3	2	アメリカリョウブ	5	5	ミヤコウスレ	30	5	シソ	30
駐車場	ハイキ	1	駐車場	ヤマモミジ	1	2	フロックス・ディビリカタ	20	2	タチジャコウソウ	20
2	ライラック	3				2	スズラン	50	2	カラミンサ	30
3	ヒトツバタゴ	1				3	シヤガ	50	2	ギボウシ	50
3	エゴノキ	1				5	シラン	30	3	アガパンサス	30

※樹木・草花の配置は、左図中の「シーン1～6」のシーン別に配置。その配置(シーン)番号を記す。

## Cool Japan

“The scenery is just amazing!!”  
里山の風景を目にした海外観光客はこう感嘆の声を挙げる。2020年日本で開催されるオリンピックを目前に、京都を訪れる観光客はますます増加していくであろう。ここ京北の地から、日本の原風景ともいえる「里山風景」や、日本ならではの美意識の息づく「和の趣きの庭」を、Cool Japanとして、海外に向けて発信したい。

## Context & Story

京都市右京区京北町は、京都市の中心街から1時間弱、人口7000人が暮らすのどかな街。私達(株)京北グリーンは、古民家の再生を行い、農業法人として、「耕作放棄地」を、ブルーベリー畑として再生する活動を行ってきた。今回、ブルーベリー畑に隣接して、「和の趣きの庭園」を造ることとなった。

## Concept & Design

美しい里山風景に溶け込む和庭を造るため、デザインコンセプトとして、地元の景勝地・桂川の「六ヶ堰」にインスピレーションを得た。庭園の名前「花簾庭」は、「水簾」に由来し、堰を乗り越える水の流れを、流れるように咲くバラの花で表現する。

## Circulation of Scent

庭園に植える植物を選定する上で最重要事項は「香り」。良質な香りを嗅ぎ心地良きを感じる事で、副交感神経を優位にし、自律神経を整えるとして、日本古来のお香やハーブを用いたアロマなどを積極的に生活に取り入れる方が増えている。当地は谷筋に立地し、風が吹き抜ける絶好のロケーション。この地形を生かし、植物の香りが滞留・循環し、街へと広がり、「香り環境」を生み出すことを狙った。メイン植物となるバラは、ダマスク、ミルラ、フルーツ、スパイス、ティー、ブルーローズ香など、様々な香りの約150品種、約3000株を植栽。バラのない季節も、四季折々に庭に香りが漂うような植栽計画とした。

## Community & Collaboration

京北町では、「花降る里」は「ほくプロジェクト」として、自治体、住民が一体となり、四季を通して花の溢れるまちづくりへの取り組みが既に実施されている。この庭園が新しく交流の拠点となり、地域の住民にも親しまれることを望み、併設する作業所での寄せ植え教室や植樹イベントなど、地域の子どもたちが香りの花に親しむ「花育の場」となるような企画を考えていきたい。

## Change & the Future

現在、隣町・美山町は、「芽ぶきの里」として海外観光客が多数訪れている。ここ京北町へも「香りの里」として訪れて頂きたい。農村での民泊や農作物の収穫など、体験型レジャーは海外では珍しい。庭園を含む新しい観光提案が今後出来ないだろうか？ サスティナブルで様々な新しい可能性を生み出す取り組みとして、海外観光サイトやInstagram等で情報発信し、国内外の来訪者を増やしたい。バラの育成期間は約3年。ちょうど2020年オリンピックの頃に、この「花簾庭」を百花繚乱とし、訪れた沢山の国の入道の目を惹きつけ、香りによって癒すのが目標だ。香りの記憶は視覚に比べ、忘れにくいというデータがある。人々の記憶に残る「香りの里」を目指して、私達の挑戦は始まったばかりだ。



植栽写真提供元：一般社団法人日本植木協会&株CML

